

定期作業報告

令和4年8月
(8月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は平年より多く（平年比194%）、日照時間は少なかった（平年比56%）。

8月上旬：最高気温は低く、最低気温、平均気温とも平年並であった。降水量（平年比112%）、日照時間（平年比84%）とも平年並であった。

8月中旬：最高気温、最低気温、平均気温ともやや高かった。降水量は極めて多く（平年比208%）、日照時間は平年並であった（平年比106%）。

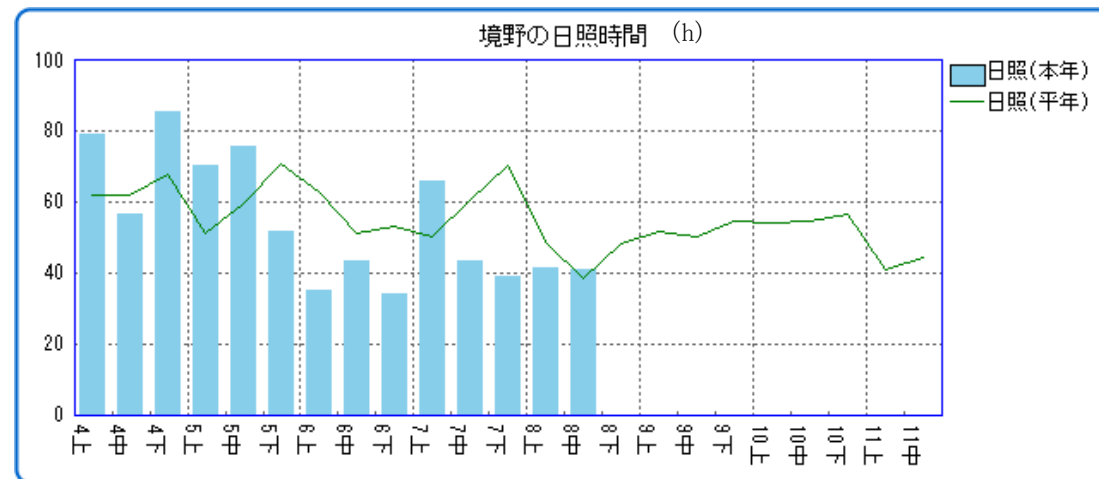
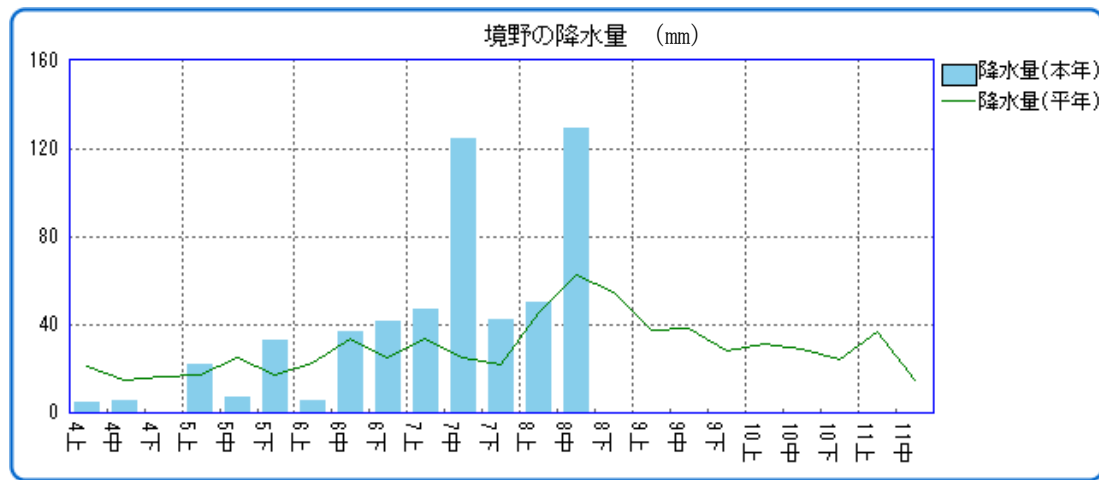
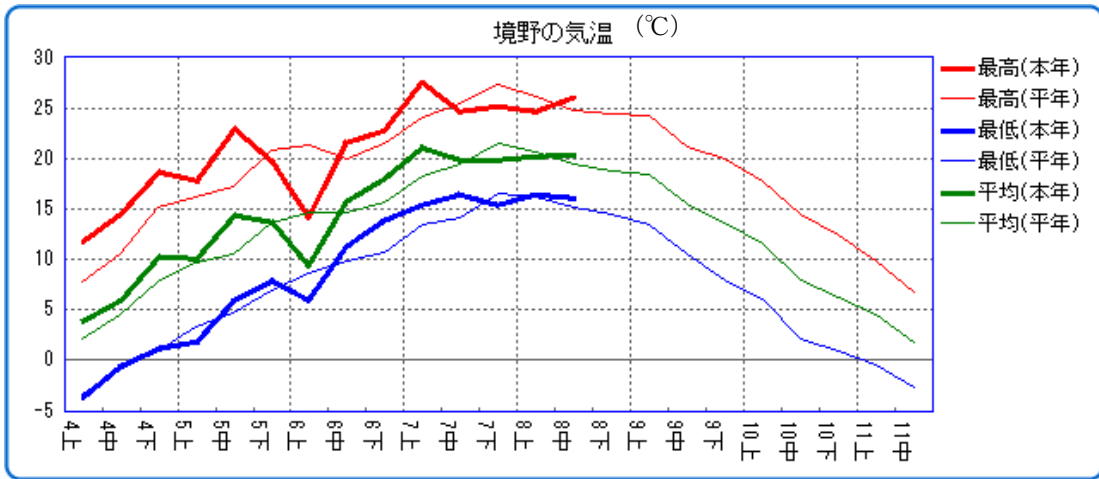
以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温が平年並で、降水量は多く、日照時間はやや少なかった。

気象表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	19.9	21.5	-1.6	25.2	27.4	-2.2	15.3	16.5	-1.2
8月 月上旬	20.2	20.7	-0.5	24.6	26.2	-1.6	16.4	16.2	0.2
8月 月中旬	20.3	19.4	0.9	26.0	24.7	1.3	16.1	15.2	0.9

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	42.0	21.7	20.3	39.0	70.3	-31.3
8月 月上旬	50.0	44.8	5.2	41.3	48.9	-7.6
8月 月中旬	129.5	62.2	67.3	41.1	38.7	2.4

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる（てん蔵の定期作況気象情報）。10年平均は前10か年の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（令和3年9月播種） 作況：不良

月	作況	事由
令和3年 11月20日	やや良	播種期は平年より7日早い9月16日であった。出芽期は平年より7日早い9月23日であった。播種が早く、出芽期以降の平均気温が平年並から高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
令和4年 5月20日	平年並	根雪始は平年より12日遅い12月18日、根雪終は平年より1日早い4月6日で、根雪期間は平年より13日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より10日早い3月27日で、雪腐病の発生は僅かに認められた。融雪後の平均気温は平年並から高かった。しかし、コムギ縮萎病が発生し、萎縮症状が認められ、草丈が平年をやや下回った。茎数は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
6月20日	平年並	出穂期は平年より1日早い6月7日であった。草丈は平年をやや下回ったが、茎数は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	登熟期間は降水量が多い傾向で推移したものの、気温は6月下旬は高く、7月上旬は極めて高く推移したため登熟は平年よりやや早く進んでいる。稈長は平年並で、穂長、穂数はやや下回った。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	不良	成熟期は平年より2日早い7月23日で、登熟期間は平年より1日短かった。また、コムギ縮萎病により生育が抑えられたこと、穂長、穂数が平年をやや下回ったこと（前報）、7月上旬を除き、登熟期間の日照時間がやや少なかったことにより、子実重は平年比63%であった。リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年を下回った。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
11月20日		

生育データ

品種名		きたほなみ		
		本年	平年	比較
項目/年次				
播種期	(令和3年月.日)	9.16	9.23	△7
出芽期	(令和3年月.日)	9.23	9.30	△7
出穂期	(令和4年月.日)	6.07	6.08	△1
成熟期	(令和4年月.日)	7.23	7.25	△2
草丈 (cm)	(令和3年11月20日)	19.6	14.1	5.5
	(令和4年5月20日)	33.3	37.3	△4.0
	(令和4年6月20日)	82.5	86.9	△4.4
茎数 (本/m ²)	(令和3年11月20日)	1316	960	356
	(令和4年5月20日)	1364	1254	110
	(令和4年6月20日)	800	740	60
成熟期	稈長 (cm)	79	79	0
	穂長 (cm)	7.6	8.3	△0.7
	穂数 (本/m ²)	646	688	△42
子実重 (kg/10a)		489	779	△290
同上平年比 (%)		63	100	△37
リットル重 (g)		808	801	7
千粒重 (g)		38.6	40.8	△2.2
品質 (検査等級)			1	-

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、令和2年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや不良

月	作況	事由
5月20日	良	調査圃場は融雪剤散布により3月26日に融雪期となった。3月下旬から4月上旬の気温は高く、降水量は少なかったため、圃場の乾燥が進み、播種期は平年より5日早い4月11日となった。播種後の4月中下旬の気温は高く、出芽期は5日から6日早かった。出芽後の4月下旬から5月中旬の気温はやや高く、生育は進んでおり、草丈、茎数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
6月20日	平年並	6月上旬の平均気温が平年より極めて低かったため、生育が緩慢となったが、出穂期は平年より1～3日早かった。草丈は平年より高く、茎数は平年並である。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	開花後の6月下旬に降水量が多かったことから赤かび病の発生がわずかに見られた。稈長、穂長、穂数は平年並であった。7月18日の激しい降雨によって倒伏が発生した。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	やや不良	成熟期は平年より6日早かった。出穂期は平年より1～3日早かったため、登熟期間が平年より3～5日短かった。また、登熟期間の日照時間は少なかった。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
9月20日		
11月20日		

作況データ

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.11	4.16	△ 5	4.11	4.16	△ 5	
出芽期 (月.日)	4.24	4.29	△ 5	4.25	5.1	△ 6	
出穂期 (月.日)	6.19	6.20	△ 1	6.16	6.19	△ 3	
成熟期 (月.日)	7.31	8.6	△ 6	8.3	8.9	△ 6	
草丈(cm)	(5月20日)	26.1	19.5	6.6	28.9	20.5	8.4
	(6月20日)	76.2	69.8	6.4	77.6	69.7	7.9
茎数(本/m ²)	(5月20日)	986	607	379	965	581	384
	(6月20日)	792	820	△ 28	754	799	△ 45
稈長(cm)	(7月20日)	93	95	△ 2	93	90	3
穂長(cm)	(7月20日)	8.4	8.3	0.1	7.6	7.7	△ 0.1
穂数(本/m ²)	(7月20日)	718	707	11	712	702	10
子実重(kg/10a)			541		518		
同上平年比 (%)			100		100		
リットル重 (g)			791		787		
千粒重 (g)			39.1		39.9		
品質 (検査等級)			1	-	1	-	

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

月日	作況	事由
6月20日	不良	播種は平年より1日遅い5月17日に行った。播種直後は乾燥傾向であり、その後降雨があったものの、気温が極めて低かったことから出芽期は平年より14日遅い6月13日であった。6月20日現在の草丈は平年より18.5cm低く、葉数は3.3枚少ない。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
7月20日	不良	6月下旬以降、平年に比べ高温で推移したものの、7月20日現在の草丈は平年より14.3cm低く、葉数は2.9枚少ない。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
8月20日	やや不良	8月20日現在の草丈は平年より27.7cm高いものの、絹糸抽出期は7日遅く、生育はやや遅れている。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

調査項目	KD320			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.17	5.16	1	
出芽期 (月.日)	6.13	5.30	14	
開花期 (月.日)	8.10	8.01	9	
抽糸期 (月.日)	8.08	8.01	7	
収穫期 (月.日)		9.26		
収穫時の熟度		黄熟初期	-	
草丈 (cm)	(6月20日)	14.3	32.8	△ 18.5
	(7月20日)	154.8	169.1	△ 14.3
	(8月20日)	298.5	270.8	27.7
稈長 (cm)	(9月20日)		244	
葉数 (枚)	(6月20日)	2.4	5.7	△ 3.3
	(7月20日)	10.5	13.4	△ 2.9
	(8月20日)	15.0	15.4	△ 0.4
生総重 (kg/10a)		6468		
乾物茎葉重 (kg/10a)		976		
乾物雌穂重 (kg/10a)		1023		
乾物総量 (kg/10a)		1998		
同上平年比 (%)				
推定TDN収量 (kg/10a)		1437		
同上平年比 (%)				
総体の乾物率 (%)		30.9		
乾雌穂重割合 (%)		51.1		
有効雌穂割合 (%)		100.0		

注) 今年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前4か年の平均。

4) 大豆

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	やや不良	播種は平年より1日早い5月20日に行った。播種後の著しい低温傾向により出芽期は平年より8日遅い6月11日だった。出芽後は高温傾向に転じたが、主茎長、本葉数とも平年を下回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
7月20日	やや不良	高温傾向により生育はやや回復し、開花始は平年並の7月19日だった。本葉数は平年並だが主茎長と分枝数は平年を下回った。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
8月20日	平年並	生育は順調で、主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数はいずれも平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.20	5.21	△ 1.0
出芽期	(月.日)	6.11	6.03	8.0
開花始	(月.日)	7.19	7.19	0.0
成熟期	(月.日)		9.22	
主茎長 (cm)	(6月20日)	4.4	10.6	△ 6.2
	(7月20日)	41.0	48.3	△ 7.3
	(8月20日)	64.2	63.6	0.6
	(9月20日)		63.8	
	(成熟期)		64.0	
本葉 数(枚)	(6月20日)	0.2	0.8	△ 0.6
	(7月20日)	7.2	7.3	△ 0.1
主茎節数	(8月20日)	10.4	10.6	△ 0.2
	(9月20日)		10.3	
	(成熟期)		10.3	
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.3	4.3	△ 1.0
	(8月20日)	5.6	5.5	0.1
	(9月20日)		4.8	
	(成熟期)		4.9	
着莢数 (個/株)	(8月20日)	78.5	77.6	0.9
	(9月20日)		72.0	
	(成熟期)		71.2	
一莢内粒数			1.93	
子実重(kg/10a)			329	
同上平年比(%)				
百粒重(g)			30.5	
屑粒率(%)			1.5	
品質(検査等級)			2上	

注1) 平年値は前7か年中、28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

5) 小豆

作 況：やや良

月日	作況	事由
6月20日	やや不良	播種は平年より1日早い5月20日に行った。播種後の著しい低温傾向により出芽期は平年より10日遅い6月17日で、主茎長、本葉数ともに平年を下回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
7月20日	やや良	高温傾向で降水量も多かったため生育は旺盛で、主茎長、本葉数、分枝数はいずれも平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	やや良	開花始は平年並であった。生育は旺盛で主茎長は平年より長く、徒長傾向で倒伏が発生している。平年と比較して主茎節数は同等、分枝数は「エリモショウズ」が多く、「きたろまん」が少ないが、着莢数は両品種とも多かった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

調査項目	エリモショウズ			きたろまん			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.21	△ 1	
出芽期 (月・日)	6.17	6.07	10	6.17	6.07	10	
開花始 (月・日)	7.25	7.25	0	7.25	7.24	1	
成熟期 (月・日)		10.01			9.30		
主茎長 (cm)	(6月20日)	2.0	4.0	△ 2.0	2.4	3.8	△ 1.4
	(7月20日)	21.8	17.0	4.8	21.2	16.0	5.2
	(8月20日)	79.7	65.6	14.1	83.6	67.3	16.3
	(9月20日)		68.3			71.7	
	(成熟期)		69.3			70.5	
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	0.4	△ 0.3	0.0	0.4	△ 0.4
	(7月20日)	7.4	6.5	0.9	6.8	6.2	0.6
主茎節数	(8月20日)	14.0	14.3	△ 0.3	14.1	13.5	0.6
	(9月20日)		14.3			13.4	
	(成熟期)		14.1			13.5	
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.0	1.8	1.2	2.3	1.5	0.8
	(8月20日)	4.5	4.0	0.5	2.3	3.3	△ 1.0
	(9月20日)		4.1			3.4	
	(成熟期)		4.2			3.4	
着莢数 (個/株)	(8月20日)	46.7	36.7	10.0	43.1	33.8	9.3
	(9月20日)		52.3			48.8	
	(成熟期)		50.8			47.6	
一莢内粒数		6.45			6.2		
子実重(kg/10a)		370.0			353.0		
同上平年比 (%)		100.0			100.0		
百粒重 (g)		16.0			17.2		
屑粒率 (%)		8.8			5.4		
品質 (検査等級)		4上			4上		

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

6) 菜豆

作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	やや不良	播種は平年より1日早い5月20日に行った。播種後の低温傾向により出芽期は平年より2日遅い6月4日だった。出芽後も6月上旬は低温傾向が続き、草丈と本葉数はともに平年を下回っている。 以上により、目下の作況は「やや不良」である。
7月20日	平年並	高温傾向で降水量も多かったため生育は旺盛で、開花始は平年より1日早い7月9日だった。草丈は平年を上回ったが本葉数と分枝数は平年を下回り、やや徒長傾向である。 以上により、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	生育は順調で、平年と比較して草丈は長く徒長傾向で、主茎節数と分枝数はやや少なかったが、着莢数は多かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.20	5.21	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.04	6.02	2	
開花始 (月.日)	7.09	7.10	△ 1	
成熟期 (月.日)		9.03		
草丈 (cm)	(6月20日)	5.0	10.9	△ 5.9
	(7月20日)	44.9	38.0	6.9
	(8月20日)	48.3	43.5	4.8
	(成熟期)		42.8	
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	0.7	△ 0.5
	(7月20日)	3.3	3.9	△ 0.6
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.5	△ 0.5
	(成熟期)		5.5	
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.1	5.4	△ 1.3
	(8月20日)	4.5	5.0	△ 0.5
	(成熟期)		5.0	
着莢数 (個/株)	(8月20日)	24.2	20.6	3.6
	(成熟期)		20.6	
一莢内粒数		2.82		
子実重(kg/10a)		296		
同上平年比 (%)		100		
百粒重 (g)		65.6		
屑粒率 (%)		25.8		
品質 (検査等級)		4上		

注1) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重は水分15%換算。

注3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

7) 馬鈴しよ 作 況：平年並

月日	作況	事由
6月20日	平年並	植え付けは平年並の5月11日に行った。5月中旬の気温が高かったため、萌芽期は平年より3～4日早かった。萌芽期は早かったが、6月上旬の低温により、両品種ともに茎長・茎数は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	萌芽に引き続き、地上部生育は早く、開花始は平年より1～3日早かった。日照時間は平年並で降水量がかなり多く、両品種とも生育は軟弱傾向だが、茎長は平年並である。茎数は、早生の「男爵薯」では平年よりやや少なかったが、晩生の「コナユタカ」では平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	前報に引き続き、両品種ともに生育は軟弱傾向であり、「男爵薯」は茎葉の黄変・枯ちようが進んでいる。早生の「男爵薯」では、上いもの平均重は平年並であり、上いも数は平年よりやや多く、上いも重はやや多い。晩生の「コナユタカ」は、上いもの平均重は大きいものの、上いも数は平年より少なく、上いも重はやや少ない。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

調査項目	男爵薯			コナユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.11	5.11	0	5.11	5.11	0	
萌芽期 (月.日)	5.26	5.30	△ 4	5.29	6.01	△ 3	
開花始 (月.日)	6.28	6.29	△ 1	7.01	7.04	△ 3	
枯ちよう期 (月.日)		8.31			10.14		
茎長 (cm)	(6月20日)	22.7	23.3	△ 0.6	11.6	13.4	△ 1.8
	(7月20日)	56	54	2	82	77	5
	(8月20日)	59	54	5	119	97	22
茎数(本/株)	(6月20日)	3.3	3.9	△ 0.6	2.0	2.7	△ 0.7
	(7月20日)	3.4	4.3	△ 0.9	3.0	2.8	0.2
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5251	4849	402	3693	3911	△ 218
	(9月20日)		4766			5613	
でん粉価 (%)	(8月20日)	16.4	15.2	1.2	18.8	19.0	△ 0.2
	(9月20日)		15.2			21.0	
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)		-			1117	
上いも数(個/株)			10.3			8.5	
上いも平均重(g)			106			175	
上いも重(kg/10a)			4766			6475	
同上平年比 (%)			100			100	
でん粉価 (%)			15.2			21.5	
でん粉重(kg/10a)			-			1328	
同上平年比 (%)			-			100	

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和3年(最豊)を除く5か年の平均

月日	作況	事由
5月20日	やや不良	<p>移植栽培の播種は、平年より1日遅い3月24日に行った。以降、4月中旬まで気温が高めに経過したため、育苗期間中の苗の生育は非常に良好であった。移植は、平年より2日早い5月2日に行った。前日まで土壌は乾燥していたが、移植直前の降雨で土壌が適湿となったため、活着は良好であった。その後は乾燥傾向が続き、5月上旬の強風も相俟って生育がやや抑制された。草丈、生葉数はほぼ平年並であったが、茎葉重は平年をやや下回っている。</p> <p>直播栽培の播種は平年より1日遅い5月7日に行った。播種時およびそれ以降に土壌が乾燥傾向であったため、出芽期は平年より1日遅い5月18日であったものの、出芽揃いが例年よりやや劣っている。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。</p>
6月20日	不良	<p>5月中の乾燥傾向は5月終わりの降雨で解消したものの、その後の低温傾向とやや少なかった日照時間のため、生育は抑制され、草丈、茎葉重、根重は大きく平年を下回っている。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「不良」である。</p>
7月20日	平年並	<p>この1ヶ月間は十分な降雨があり、気温も平年より高めに経過し、日照時間も十分確保できたため、生育は回復傾向となり、草丈等の地上部の生育および直播における根重と根周は平年を上回った。一方、移植における根重と根周はやや回復が遅れ、平年を下回った。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「平年並」である。</p>
8月20日	平年並	<p>この1ヶ月間は、気温が平年並で、降水量と日照時間が確保できたため、前報に引き続き生育は順調に進んだ。移植栽培の根重、根周は、初期生育不良の影響が残り「アンジー」は平年並だが「アマホマレ」は平年を下回った。直播栽培では、根重、根周とも平年を上回った。</p> <p>以上のことから、目下の作況は「平年並」である。</p>
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

調査項目		移植						直播		
		アンジー			アマホマレ			アンジー		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.24	3.23	1	3.24	3.23	1	5.06	5.05	1
移植期	(月.日)	5.02	5.04	△ 2	5.02	5.04	△ 2	-	-	-
出芽期	(月.日)	-	-	-	-	-	-	5.18	5.17	1
収穫期	(月.日)		10.19			10.19			10.20	
草丈 (cm)	(5月20日)	7.2	6.5	0.7	6.6	7.0	△ 0.4	-	-	-
	(6月20日)	15.0	24.7	△ 9.7	16.4	25.8	△ 9.4	10.6	14.0	△ 3.4
	(7月20日)	58.7	52.3	6.4	61.3	52.9	8.4	60.9	47.9	13.0
	(8月20日)	65.1	57.8	7.3	69.3	59.0	10.3	68.2	59.5	8.7
	(9月20日)		58.9			61.4			61.0	
生葉数 (枚)	(5月20日)	7.5	6.1	1.4	4.8	5.0	△ 0.2	-	-	-
	(6月20日)	11.9	12.4	△ 0.5	11.4	11.6	△ 0.2	7.2	8.8	△ 1.6
	(7月20日)	22.2	21.0	1.2	22.7	20.2	2.5	21.1	18.9	2.2
	(8月20日)	27.2	27.9	△ 0.7	24.7	25.9	△ 1.2	25.5	26.1	△ 0.6
	(9月20日)		30.5			28.8			27.6	
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	0.9	1.2	△ 0.3	0.9	1.4	△ 0.5	-	-	
	(6月20日)	25	76	△ 51	24	81	△ 57	8	13	△ 6
	(7月20日)	579	497	82	661	551	110	589	337	252
	(8月20日)	973	764	209	983	824	159	956	690	266
	(9月20日)		740			840			716	
根重 (g/個体)	(6月20日)	5	16	△ 11	5	19	△ 14	0	1.0	△ 1
	(7月20日)	247	270	△ 23	245	265	△ 20	169	125	44
	(8月20日)	764	738	26	678	735	△ 57	637	571	66
	(9月20日)		1031			1028			854	
根周 (cm)	(7月20日)	22.4	23.5	△ 1.1	21.8	23.0	△ 1.2	21.2	17.7	3.5
	(8月20日)	34.1	34.0	0.1	31.0	32.7	△ 1.7	33.0	30.4	2.6
	(9月20日)		38.1			37.5			35.1	
根中糖分 (%)	(9月20日)		16.50			16.90			16.70	
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)		4814			5494			4726	
根重(kg/10a)	(収穫期)		7661			6982			6478	
同上	上平年比 (%)		100			100			100	
根中糖分 (%)	(収穫期)		18.50			19.10			18.60	
同上	上平年比 (%)		100			100			100	
糖量(kg/10a)	(収穫期)		1412			1331			1209	
同上	上平年比 (%)		100			100			100	

注1) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 本年から、調査品種を「リッカ」から「アンジー」に換えて供試。

9) 牧草 (チモシー)

作 況 : 良

月日	作況	事由
5月20日	平年並	萌芽期は平年より2日早い4月18日で、冬損は認められなかった。萌芽後は気温が平年より高く経過したものの、降水量は5月上旬以外平年より少なかった。5月20日現在の草丈は平年より3cm低い37cmであり、被度は100%であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
6月20日	平年並	6月上旬が平年より低温であったものの、5月下旬および6月中旬は平年並からやや高温で推移したことから、1番草の出穂始は平年より1日早い6月9日、出穂期は平年と同日の6月14日であった。刈取時の草丈および出穂程度は平年並であり、乾物収量は平年比102%と平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	やや良	6月下旬以降高温多雨傾向で経過したことから、再生草の生育は順調であり、2番草再生時の草丈は平年より8cm高かった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	良	2番草の収穫は平年より3日遅い8月8日に行った。1番草収穫後は十分な降水量があったため、収穫時の草丈は平年より19cm高く、節間伸長程度も平年より高かった。2番草の乾物収量は平年比178%と非常に多く、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比123%であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
9月20日		
10月20日		
11月20日		

生育データ

品種名 調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4.18	4.20	△ 2
冬損程度		1.0	1.2	△ 0.2
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	
出穂始 (月. 日)		6.09	6.10	△ 1
出穂期 (月. 日)		6.14	6.14	0
出穂程度	1番草	7.8	7.2	0.6
節間伸長程度	2番草	6.0	4.1	1.9
収穫日	1番草	6.17	6.16	1
	2番草	8.08	8.05	3
	3番草		10.02	
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0.0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	2.0	2.4	△ 0.4
	3番草		3.1	
草丈(cm)	(5月20日)	37	40	△ 3
	(6月5日)	67	73	△ 6
	1番草	93	96	△ 3
	2番草再生時	47	39	8
	2番草	85	66	19
	3番草再生時		36	
生草収量 (kg/10a)	3番草		38	
	1番草	2,504	2,375	129
	2番草	1,253	822	431
	1 + 2番草計	3,757	3,197	560
	3番草		436	
乾物率 (%)	合計		3,633	
	1番草	22.3	23.2	△ 0.9
	2番草	29.7	25.6	4.1
乾物収量 (kg/10a)	3番草		28.7	
	1番草	557	549	8
	同上平年比 (%)	102	100	2
	2番草	371	208	163
	同上平年比 (%)	178	100	78
	1 + 2番草計	928	757	171
	同上平年比 (%)	123	100	23
	3番草		124	
	同上平年比 (%)		100	
合計		882		
同上平年比 (%)		100		

注1) 平年値は前7か年のうち平成28年(最豊)、令和3年(最凶)を除いた前5か年の平均値。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。